

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 39 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	平成 30 年 1 月 30 日 (火) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分	場 所	木津川市役所 第 2 北別館 2 階会議室
出席者 (出席者…■) (欠席者…□)	委 員	【学識経験者】 ■中川 大 (副会長)、 ■大庭 哲治委員 【市民代表】 ■杉本 美保委員、 ■占部 禎佑委員、 ■福本 桂子委員、 ■神野 勝三郎委員、 ■大村 裕信委員、 ■平田 克子委員、 ■久保 恭子委員、 ■今西 邦雄委員 【事業者】 ■長澤 卓夫委員、 ■森本 治実委員 ※代理: 森内 諒 (近畿日本鉄道株式会社総合企画本部計画部)、 ■後藤 秀雄委員 ※代理: 橋本 倫尚 (奈良交通株式会社乗合事業部課長)、 ■津田 秀夫委員 □近藤 智彦委員、 □大江 正泰委員、 □梅田 幹夫委員、 □加藤 隆委員、 ■霜永 勝一委員 ※代理: 牧田 佑一 (奈良交通労働組合執行委員) 【行政機関】 ■清良井 利之委員 ※代理: 神山 剛 (近畿運輸局京都運輸支局運輸企画専門官)、 ■菅沼 幸江委員 ※代理: 平川 裕一 (近畿地方整備局京都国道事務所建設専門官)、 □山本 勇人委員、 ■山本 克委員、 ■梅田 学委員 ※代理: 馬庭 清 (木津警察署交通総務係長) □河井 規子会長、 □田中 達男委員、 ■若狭 朝明委員	
	その他	【オブザーバー】 □安江 亮	
事務局	福島政策監、武田事務局長、奥田事務局次長、富井係長、森川主任、宮本主任		
傍聴者	2 人		
議 題	1. 開会 2. 議事 (1) 報告事項 ①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】 (2) 協議事項 ①木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について【資料 2】 ②地域公共交通確保維持改善事業 (地域間幹線系統) 平成 29 年度事業評価案について【資料 3】 ③地域公共交通確保維持改善事業 (地域内フィーダー系統) 平成 29 年度事業評価案について【資料 4】 (3) その他 ①次回協議会の開催日程について ②その他 3. 閉会		

<p style="text-align: center;">会議結果要旨</p>	<p>1. 開会 事務局より開会の宣言があった。 協議会規約第6条第1項の規定により、中川副会長が議長となった。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として杉本委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について 資料2に基づき、事務局から提案があり、承認した。</p> <p>②地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成29年度事業評価案について 資料3に基づき、事務局から提案があり、承認した。</p> <p>③地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成29年度事業評価案について 資料4に基づき、事務局から提案があり、承認した。</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回協議会の日程について 後日通知することとした。</p> <p>②市内の公共交通に係る利用促進等の取り組みについて 平成29年度の取組み事項、平成30年度の取組みの方向性について説明した。</p> <p>③市民委員の募集について 委員の任期満了に伴う、市民代表委員の募集について説明した。</p> <p>3. 閉会</p>
<p style="text-align: center;">会議経過要旨</p> <p>◎議長 ○委員 →事務局</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1 木津川市コミュニティバス利用実績 【主な意見・質疑等】 ○：デマンド路線の利用者が増えてきているが、デマンドの利用方法に馴染んできたということか。 →：西線利用者が前年度比45.7%増となっているが、平成28年度に開催した瓶原地域のワークショップでの利用促進や、バス停の間隔を短くしたことによる利便性の向上が要因と考えている。 ○：増加要因として京都非公開文化財特別公開が挙げられるが、今後は観光資源を利</p>

用して乗客の増加につなげることが必要でないか。

(参考) 京都非公開文化財特別公開【主催：(公財) 京都古文化保存協会】

【期間:平成29年11月1日(水)～12日(日)】

→: 観光客に対するバスの周知が重要であり、市外に向けてもバスの運行を発信していきたいと考えている。

○: 西線のバス停追加が利用者増につながっているが、路線ごとにアンケートを行い、バス停の位置など、利用者のニーズを調べる必要があるのではないか。

→: 西線はワークショップでの利用者意見から、バス停の追加設置した。今後もワークショップ等を通じて地域の意見を把握し、必要に応じてバス停の設置等の検討を続けていく。

○: 観光はコミュニティバスの更なる利用につながる非常に重要な要因である。市内のイベントを共有し、事前にバス利用のPR活動に取り組むことが必要である。その一方で、住民の着実な利用も大切であり、地域の方々の利用促進も両輪で行う必要がある。

○: 非公開文化財特別公開にボランティアとして参加した際、西念寺から恭仁宮跡まで行きたいが、直通便がないとの声を多く聞いた。

→: 期日限定ではあるが、木津駅から岡崎までの区間を奈良交通の臨時バスが運行した。引き続き、運行事業者イベント情報を積極的に提供し、臨時バスの運行等をお願いしたいと考えている。

○: イベントの結果を受け、海住山寺行きバス路線の土日祝日運行の検討は。

→: 現状の利用状況を鑑みて、臨時バス以外の土日祝日運行は経費的に厳しい。

◎: 観光イベントによる利用者の増加は、「イベントがあったから増加した」という考え方もできるが、「バスを着実に運行しているからイベントにも利用してもらえた」という要素もある。着実な運行を継続し、観光地へ常時来てもらえるようにすることが重要である。京都市交通局は10数年前まで累積赤字が100億円を超えていたが、路線を縮小することなく、むしろ便利にしたことによって多くの観光客が利用することに繋がり、累積赤字も解消した。

○: 非公開文化財特別公開は、朝日新聞で大々的にPRされており、以前行った同様のイベントではバスに乗り切れないほど観光客の利用があったため、奈良交通が臨時バスを運行することになった。市で開催する通常のイベントではそこまでの利用者が望めない。鹿背山から海住山寺までのルートについて、平成14年に木津駅から和束町を結ぶ路線が運行していたが、加茂木津間の利用はほとんどなかった。継続して運行することは重要だが、民間企業として利用がない路線を維持することは非常に難しい。バス事業者だけでなく、市、協議会、お寺など全体的な機運が盛り上がらないとイベントも活かし切れない。

◎: 既存の路線でもアクセスできる観光地は多くあるため、どのような工夫・運用していくか検討を続けてほしい。

○: 浄瑠璃寺の通常のイベントと非公開文化財特別公開の利用者数は大きく異なっていたのか。

○: 浄瑠璃寺は非公開文化財特別公開のイベントに含まれていなかったが、観光シーズンは定期観光バスを含めて多くのご利用をいただいている。

(2) 協議事項

① 木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について

【配布資料】資料2 木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について

【主な意見・質疑等】

○：かもバスのダイヤ改正を行わないことになっているが、山城病院の診療時間に合わせて、南加茂台線の始発を早くしてほしい。

また、高の原から木津駅までコミバスを利用し、JRで加茂駅に向かう場合、きのつバス3路線の中で1路線しか乗換時間が合わない。

→：デマンドタクシーは各路線に専用車両はなく、限られた台数で各地域を回るようにダイヤを編成している。山城病院は基本的に予約診療であり、できる限りバスの運行時間に合わせた予約をお願いしたい。

木津駅から加茂駅への乗換については、JRのダイヤ、バスの編成を含め総合的に検討していく。

◎：JR木津駅の乗り換えは重要な指摘である。木津駅から加茂駅に向かう関西本線は毎時28分と58分、大阪方面への学研都市線は毎時29分と59分、JR奈良線は1分と31分にみやこ路快速が運行している。主要な方向へのダイヤが集中しているため、この時間帯にバスが到着するダイヤを編成すれば、3方向へ接続できる。ただし、バスから鉄道への乗り換えだけを考慮した場合であり、鉄道からバスへの乗り換えはダイヤを編成してみないとわからないため、検討してほしい。

鉄道事業者は、電車のダイヤ・コンセプトを大きく変える場合、できるだけ早く情報提供をお願いしたい。

○：奈良交通では3月17日にダイヤ改正を予定している。基本的に時刻改正のみだが、電車の時間により運行回数を変更する可能性がある。また、バス停名について、「木津南ソレイユ」の変更を検討しており、決定次第、事務局に連絡する。

② 地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成29年度事業評価案について

③ 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成29年度事業評価案について

【配布資料】

資料3 地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成29年度事業評価案について

資料4 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成29年度事業評価案について

【主な意見・質疑等】

○：路線不定期運行の利用者数の計算方法は。

→：事業評価期間である平成28年10月から平成29年9月までの利用者数を日数で除して、1日あたりの人数を出している。なお、目標数値については、第33回協議会において当計画の協議いただき、承認されたものである。

○：デマンドの総括はいつ報告するのか。

→：次回の協議会で報告する。

○：1日あたりの人数が合わないのではないか。

→：1年間の日数ではなく、運行日での計算である。

○：きのつバス木一3の利用者の減少について、しっかりと調査していくべきではないのか。

→：今後公共交通の計画の見直し時に大きなアンケートを実施していきたい。また、

	<p>利用状況等については、日々情報収集に努めていく。</p> <p>○：木－3については、分析を進めているが、ICカードの利用状況からは特徴は見いだせなかった。利用増減をみると南陽高校、木津川台一丁目から木津川台住宅の間で利用が減っており、ICカードではなく現金利用者が減っているのではないかという考察はできるが、具体的にどのバス停を利用されている方にアクションを起こせば利用が増えるのかという所まで至っていないため、木津川台にお住まいの方や木－3の利用者の意見を上げていただけるとありがたい。</p> <p>○：木津第二中学校の生徒が木津川台方面に帰るバスがないという話を聞いている。</p> <p>→：木－3が1時間に1便であるが運行している。</p> <p>○：加茂木津間の実証運行は継続審議となっているが、南加茂台地域の交通利便性向上のため、検討を進めて欲しい。</p> <p>→：前回協議会で経費等の数値について報告を行った。現時点では民間路線の維持を第一義に考えて継続審議としたい。</p> <p>◎：全ての地域がすべての駅に向かって直通便を出すことは経費的に難しい。</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回協議会の日程について 3月中を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。</p> <p>②市内の公共交通に係る利用促進等の取り組みについて 会議結果要旨のとおり。</p> <p>③市民委員の募集について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 閉 会</p> <p>以上。</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>なし。</p>